

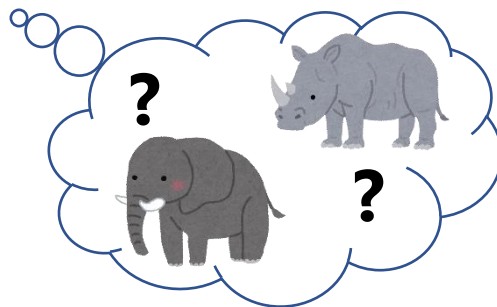
## 「サイ」よりも「ゾウ」

校長 柏原 奈保

新緑が美しい季節になりました。先日、雨上がりの朝、校庭の崖の上のほうから水が流れてきていたので、体育倉庫の後ろに回ってみました。すると、地層の間から幾筋もの水が白糸のように流れていました。太陽の日に照らされてきらきらと美しく輝き、さらに、その流れる水のきらめきが崖の緑と相まって、体育倉庫の裏とは思えぬ、なんとも幻想的な景色を作っていました。

新しい仲間、新しい先生、新しい教室で始まった新年度。早いもので、一か月が過ぎようとしています。とりわけ1年生にとって、この一か月は、大変な緊張だったのではないのでしょうか。学校という初めての環境に飛び込み、わからないことを誰に聞いたらよいかわからない、困っていることを誰に言ったらよいかわからない……。そんなことを一つひとつ乗り越えながら成長し、「六浦南小の子」になっていくのでしょうか。ほかの学年も「1年生の一つ上のお兄さん、お姉さんとして」「最高学年として」など、どの子たちも、この一か月は、乗り越えることがあったに違いありません。全校の子どもたちに「よく頑張っているね」と伝えたい気持ちでいっぱいです。

始業式で子どもたちに「サイとゾウ」の話をしました。「サイとゾウ、どっちが好き?」「『勉強しなサイ』と『勉強するゾウ』だったら、どうかな」。多く子どもが、「『ゾウ』がいい」と答えました。「しなさい」と言われてやるのではなく、自分で「するぞう」と考えてやるほうがいいと言うのです。



一昨年度から新しい学習指導要領での教育が始まっています。学習指導要領は、大まかな教育の内容を示したものですが、以前と比べると、子どもたちに付ける学力の考え方が大きく変わっています。急激に変化するこれからの社会を生きる子どもたちには、自ら主体的に課題を解決しようとする力が求められています。誰かに「しなさい」と言われて受け身で行った学習より、「するぞう」と自ら進めた学習の方が、「できた」「わかった」の喜びは大きく、理解も深まるのではないのでしょうか。そして、「これはどうだろう」と新たな学習への意欲も生まれるのではないのでしょうか。子どもたちが主体的に学習するためには、接する我々の指導の仕方が重要になります。「するぞう」と思える内容や方法、タイミングは子どもによって様々です。一人ひとりがいきいきと活動し、「笑顔」の子どもたちをたくさん見られるようにと本校では考えています。